

事業番号	0066	事業名	全国的視点に立った人権啓発活動の実施
------	------	-----	--------------------

外部有識者の評価結果

1 事業全体の抜本的改善	3
2 事業内容の改善	3
3 現状通り	0

【事業全体の抜本的改善】

- 結局何が目的の事業なのかよく分からない。管理可能な具体性をもった目的を定立するのが出発点であろう。現状では、目的がはっきりせず、したがって成果が上がっているか否かも判然としない以上、今後事業をこのまま継続すべき理由はないと思われる。
- 「人権啓発」それ自体は重要なことだが、現在行われている具体的事業の必要性、効果が十分に見えてこない(検証はこれから・・・というのでは積極的に評価できない。)。事業の刷新を大胆に図る必要があるのではないか。その結果、より大きな事業になったとしてもそれは望ましい話といえる。
- 文部科学省との連携が不十分である。連携に不熱心な地域が永年にわたりそのままであったことを見ると、事業がルーティーンワーク化してしまっている。啓発活動の効果について、成果目標を定量的に示せないとしてしまうと検証のしようがない。成果管理をするべく、成果目標は定量的に示すよう最大限努力すべきである。
全国中学生人権作文コンテストは、中学生向けの人権啓発活動の他の方策の中で厳しく比較衡量しながら、前例にとらわれず、有効性を検討し、他の方策より有効性が乏しければ廃止も含め再考すべきである。

【事業内容の改善】

- 人権が尊重される社会の実現に寄与するため、極力縦割り行政を排除するため、人権教育と人権啓発の密接な連携を図る。
- 戦略的対応(工夫)が必要(小学生、中学生、高校生、大学生、企業等、各年代で対応策が異なるはず。)
- 全国中学生人権作文コンテストなど大切な事業と考えられるが、意識の低い人の認識を上げる内容として何がありうるのか、更に検討が必要ではないか。